

懐兔えと

三月三十一日、西光寺
花まつりの夜、お寺の前
の桜並木は満開、月は満



月。最高の花見日和だったのではないのでしょうか。

月にウサギが住む物語が世界のあちらこちらで語り継がれています。月の別名が「懐兔」。中にはウサギではなくカニであったりロバであったりするそうですが…。

『ジャータカ物語』というお釈迦様の前世の話をもとめたものの中に、「月とウサギ」の話があります。

昔々、山の中で猿と狐とウサギが仲良く暮らしていました。ある日、三匹は山の奥深くで力尽き倒れている老人を見つけました。何とかして助けようと、猿は得意の木登りで木の実を集め、狐は川から魚を獲り、それぞれ老人に与えました。ウサギは・・・というと、非力でも獲ってくることは出来ません。そこでウサギは考え込み、猿と狐に火を焚くようお願いをしました。そして、焚火の中に自ら飛び込み、食料として老人にその身を施したのです。



その老人の正体は帝釈天でした。ウサギの捨て身の慈悲を世界中に知れわたるようにと、ウサギを月に上げたのです。

枯枝で咲く桜
葉が茂り、咲く花
植物も奥が深い

サロ生仏

こんなところに 仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。

穢土えど

穢土：けがれた国土。
煩惱を抱えた

凡夫が住む世界。迷いの世界の総称。

どこかで聞いたことはないでしょうか。「厭離穢土欣求淨土」。迷えるこの世を厭い、仏の国の淨土を願う意味の淨土教で用いられる用語です。

戦国時代好きな人はピンと来たのかもしれませんが。徳川家康の旗印として有名です。桶狭間の戦い後、今川家側に属していた家康は、菩提寺の三河の大樹寺に行き、松平家の墓前で自害をしようとしています。そこへ住職登蒼が、「厭離穢土欣求淨土」の教えを説き思い留まらせたそうです。その家康が秀吉の命令で江戸に転封となります。

そこでちよつとした疑問です。当時、地名は権力者によつて変更されることがよくありました。家



康は江戸行きが決まった時に、「エド」という発音に対して「穢土」を思い浮かべなかつたとは考えられません。なぜ「エド」を残したのか・・・。わざとだったら深い理由だろう・・・。ブラタモリでやってもらえんだらどうかと密かに期待です。

